

発達障害のある子どもをもつ父母の支え合う関係についての一考察  
- 父母のききとり調査の分析から -

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
発達・福祉臨床クラスター  
浅野 裕衣

一般的に父母が支え合って発達障害のある子どもを育てる際に、両者の体験を共有しあったり、意識のずれを修復したりする過程が存在すると考えられる。

発達障害のある子どもをもつ 4 組の父母にききとり調査を実施した。父母への面接で得られたエピソードを分析した。分析にあたっては、父母単位で分析し、気づきのきっかけ、診断告知と受容、家庭生活と療育教室・園・学校生活、子育ての楽しさ、および父母間の支え合いについてその分析結果を検討した。

本研究では、父母間で体験を共有しつつも、子育てや障害に関する考え方や思いに違いやずれが認められる場合がみられた。その際、父母はその考え方や思いをお互いに認め合おうと努力したり、相手の意見や態度を尊重・尊敬し、励ましたりしながら、支え合い、協力し合って、夫婦関係を維持しながら家庭生活や親子関係を発展させていることがわかった。